



梅雨の前からずっと入っていたプールも、昨日、「プール終わりの会」とともに終了しました。会では、にじぐみさんからたいようぐみさんまでの子どもたち一人ひとりが、この夏プールで頑張ったこと・成長したことを讃える賞状をもらいました。そしてそのあとプールのところに集まって、たいようぐみさんがその成果をみんなの前で披露してくれました。どの子も得意げで、誇らしげで、少し照れながらも頑張る姿は、この夏で心身ともに一回り大きくなったことを証明してくれたようでした。

プールを始めるまでは、コロナのことが心配で今年プールをするかどうか悩みましたが、何も無く無事に過ごせたことや子どもたちの姿を見て、やってよかったとつくづくと思いました。保護者のみなさんにはいつも保育園の活動にご理解いただき温かく見守っていただき、あらためて感謝しているところです。

【産休のお知らせ】そらぐみ担任の永岡沙紀保育士が8月31日から産休に入りましたのでお知らせします。

【奉仕活動について】保護者会活動として園庭の整備をお願いしていましたが、コロナ蔓延防止のため中止となりました。

【ホームページについて】アルバム内の写真を更新しましたのでご覧ください！

9月1日は防災の日

非常用品は備えていますか？もしもの時、すぐに取り出せるよう、決まった場所に用意しておきましょう。また、定期的の中身のチェックをし、水や食料品など、期限切れの物が入っていることのないようにしましょう。

食品の裏側 ～食品添加物～ 安部司 著より抜粋

私たちの社会は、戦後、驚くほど豊かになり便利に快適になりました。しかし、今日の便利で快適な生活の「裏側」には多くの化学物質があることを忘れてはいけません。プラスチックには不可欠な「フタル酸化合物」安くきれいな輸入建材に使われる「ホルマリン」私たちの豊かな生活を支えるひとつが化学物質で、食品においても同じです。

今のように楽に簡単に食事ができるのは添加物のおかげです。添加物のおかげで安く長持ちもします。しかし、そんな便利さ豊かさの裏側には影もあります。毒性、危険性はさることながら、食文化や心までも壊してしまう力が添加物にはあるのです。今まで使われていた添加物が「発がん性があるから」という理由で急に使用禁止になったりします。

安部先生は食品添加物の神様と呼ばれ添加物を売って歩いた人でした。しかし、我が子の3歳のお誕生日、お皿においしそうに盛られていたミートボールを口にしようになった娘「やめろ一食べるのはやめろ一」と皿を取り上げたそうです。ミートボールはドロドロのくず肉に30種類の添加物を加えおいしく仕上げたもの。安部先生は家族に食べてほしくないものを開発した。こんな罪深い仕事を続けてはいけないと会社をきっぱり辞めたとのこと。添加物はまさに「魔法の粉」です。水と油と白い粉でコーヒーのフレッシュができるのです。

子どもたちは親が出す食事を拒否できません。食品添加物をすべて排除する訳にはいきませんが、野菜や肉、魚のそのものの味やうまみをなるべく大切に、心も身体も健康にを第一に大人は考えたいですね。
(園長 田中:筆)



保護者のみなさんには、園児一人あたり“雑巾2枚”と“ティッシュ1箱”(しずく・にじ・そら・ほし)の協力をお願いいたします。”

親子の

みち

絆を深め合う道程

～可能性ということ～ 広木克之※著

できない子は一人もいません。

早くできる子と、ゆっくりできる子がいるだけです。

子どもはみんな、できるようになります。

大事なのは、

自分のペースで努力するのを認めることです。

それによって能力だけでなく、自信も育つからです。

